第十一回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策（金沢八景）

平成 17 年 12 月 15 日

平成 18 年 04 月 06 日（木）金沢文庫駅改札前 10:15 集合 10:20 出発

雨天の場合は翌週 4 月 13 日（木）に順延します。

10:20出発　　10:30　　12:00

金沢文庫駅改札前－①称名寺－〔❺称名の晩鐘〕－散策コース一週（昼食）－

130:00　　14:00　　14:30解散

②県立金沢文庫－③薬王寺－~~④金澤園《昼食》－⑤柴漁港~~－〔❹乙舳の帰帆〕－シーサイドライン海の公園南口駅前

文庫入館料250円は受付で各人お支払い下さい、老人手帳無料です。

9:29　10:00　　10:15　　10:18

（参考）　公田－八景バス停－京急八景駅－京急文庫駅

一口メモ

①称名寺　金沢町２１２

真言宗金沢山（キンタクサン）称名寺。本尊弥勒菩薩立像。

中世此の地は良港で鎌倉に隣接し東の玄関として人・物・情報が行き交い賑わいました。

三代執権北条泰時が朝比奈切り通しを開き鎌倉を結ぶ軍事・経済・文化の重要な拠点となりました。

鎌倉を守った東の要衝といわれる金澤山称名寺は新編相模風土記稿の寺前村の条に、「金澤山弥勒院と号す」と記されている称名寺は、金澤北条氏の菩提寺ですが、草創の時期は明らかではありません。だが金澤氏の祖先である北条実時の六浦荘金澤館の中の持仏堂が元ではないかと推定され、亡母の七回忌に菩提を弔った文応元年（1260）頃を創建としています。

文永四年（1267）下野国薬師寺から審海上人を開山として迎え、それまで念仏宗から真言律宗に改めました。

二代北条顕時の時代には寺領もふえ、建治二年（1276）には本尊の弥勒菩薩立像を造立したようです。

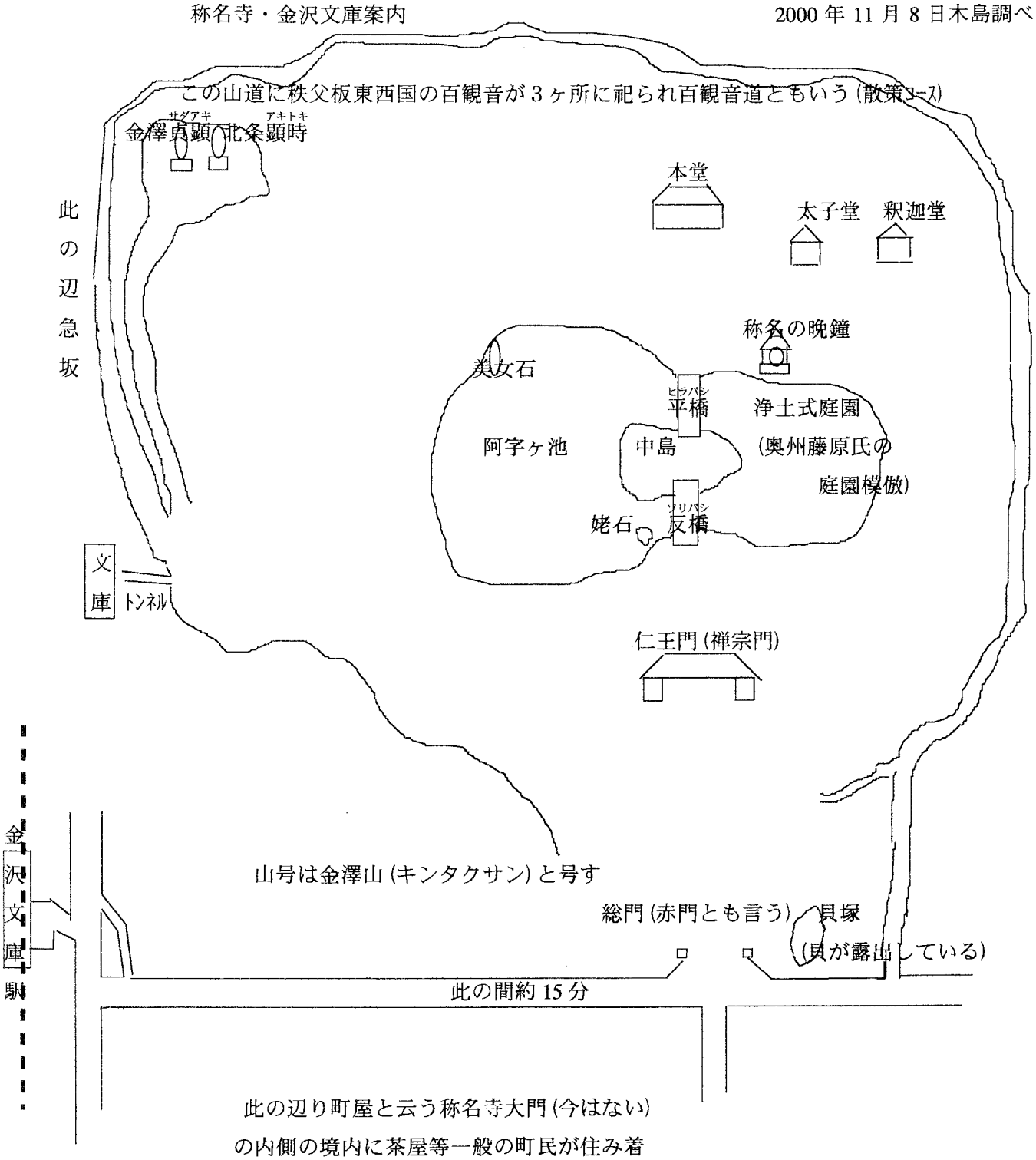
三代貞顕の頃の元亨三年（1323）には池を中心とした七堂伽藍を備えた大寺院となりました。

しかし、元弘三年（1333）鎌倉幕府が滅ぶと共に金澤北条氏も滅亡し、寺運はかたむき江戸時代には衰退しましたが、大正から昭和にかけて境内及び寺域背後の山もふくめて国の史跡指定をうけ、阿字ヶ池を中心とした鎌倉時代の浄土式庭園が復元されその景観を誇っています。

称名寺と金沢文庫に伝わる文化財は国宝２件、国重要文化財２１件本尊木造弥勒菩薩立像・梵鐘など、県重要文化財１９件があります。

座像の多い弥勒菩薩の中で１９１㎝の堂々とした立像である、中国宗時代の影響を受けた作風で穏やかなお顔、まげ、衣服、装身具など驚くほど注意深い細工が施されているといわれています。池畔の鐘楼は金沢八景の一つ〔❺称名の晩鐘〕として、つとに有名です。

実時は叡尊に深く帰依し寺を真言律宗に改めました。散策コースを一周します。



此の辺り町屋と云う称名寺大門(今はない)の内側の境内に茶屋等一般の町民が住み着いたので此の町名が有る町には船着き場の石垣が残って居り海岸だった。

金沢八景

中国の僧心越禅師が故郷瀟湘八景とそっくり絶賛、これより金澤八景と云う、広重も描く。

称名の晩鐘	乙艫の帰帆
小泉の夜雨	洲崎の晴嵐
野島の夕照	瀬戸の秋月
内川の暮雪	平潟の落雁

金澤の四名石

称名寺(金澤)	美女石
	姥　石(池の中に沈んしまい今のは二代目)
琵琶島神社(洲崎)	福　石
金龍禅院(八景)	飛び石

②県立金沢文庫　金沢町２１２

金沢文庫は鎌倉時代中頃、北条実時によって造られた日本最古の武家文庫です。称名寺や文庫に伝わる多数の古書・古文書・国宝・重要文化財を収蔵展示しています。

③薬王寺（ヤコウジ）　寺前２－２３

源範頼（ノリヨリ）の別邸の処といわれ、範頼の位牌が伝えられています。朝晩六時に鳴る鐘は心に安らぎを与える情緒あふれる鐘の音として広く知られています。小生は残念ながら未だ耳にしていません、何時か機会を得て聞きたいと思っています。

④金澤園　柴町３７

旧海軍横須賀鎮守府お抱えの料亭でした。昔の面影を残した風情ある料亭です、料理もご満足頂けると思います。今回は行程の都合で割愛し足します。

⑤柴漁港　柴町３７

柴町は鎌倉時代この地の東方に長浜千軒と誇称された村がありました。応長元年(1311)津波で民家悉く流失、その難を逃れた漁民が良い越場として移住しここを小柴村と字して漁業を続けてきました。今は係留船舶77隻江戸前のシャコ・アナゴが水揚げされるので有名です。
戦前戦中は金澤園に来亭の旧海軍横須賀鎮守府将官の水上飛行機が停泊することもあったと聞いています。コースが逆行しますので割愛します。

シーサイドライン海の公園南口駅より300mほど南の金沢小学校先町屋町35番地には、江戸時代民家もまばらで松の緑と打ち寄せるさざ波そして乙舳に帰る帆掛け船が野島を背景にのどかな情景をかもしだしていた金沢八景の一つ、〔❻乙舳の帰帆〕の景色が広がっていました。

金沢歴史散歩

Kanagawa Prefectural Kanazawabunko Museum.

探訪

繁栄　中世の六浦は、鎌倉に隣接した　湾の良港という条件から東の玄関となり、人・物・情報が行き交う場所として大変な賑わい、平安時代の中頃に源頼義が居館を構えたことから、源氏の根拠地として道は、源氏配下の武士団が鎌倉へ通う軍事道路として機能したのです。朝が幕府を開くと、鎌倉は政治・経済の中心としてさらに発展を始めました。六浦湊の重要性を認識して弟の実泰を六浦荘の地頭に補任し、仁治2年通しを開き、六浦道を鎌倉と六浦湊を結ぶ産業道路として整備しました。北也に移し、菩提寺称名寺を建立したのもこの頃と考えられています。金沢文倉の館から移した蔵書が基礎になっています。嘉元3年（1305）、金沢貞顕は日本最古といわれる瀬戸橋を架けました。瀬戸橋の完成によって、鎌倉と六浦は海陸の交通が交差する要衝として整備され、海に開かれた商業地

[illegible]　十五世紀の中頃、鎌倉公方足利成氏は関東管領上杉氏との対立から御所を下総国古河に移しました。鎌倉は、この時に政治の中心としての機能を失いました。鎌倉の外港として繁栄した六浦も、物流の変化によって次第にさびれていったのです。江戸時代に入ると、江戸近郊の観光コースとして大山・江ノ島・鎌倉・金沢の周遊が定着しました。金沢八景は、徳川光圀に招かれて水戸で活動していた明の亡命僧心越禅師が故郷杭州西湖を思いながら詠んだ漢詩によって有名になりました。八景の風景画には、称名寺・瀬戸神社などの古社寺が醸しだす落ちつき、多くの帆船が行き交う湊の賑わいや塩田・漁船・潮干狩りなど海と向かいあう人々の暮らし、その景観を楽しむ遊覧船や旅人の姿が描かれています。金沢八景の魅力は、海を基調とした自然の美しさに、人々の営みの跡を重ね合わせることによって成り立っていたのです。

神奈川県立金沢文庫

文庫とは、文書・記録・書籍など、家が後代に残すべき資料として大切に保存してきたものを保管した書庫をいいます。金沢文庫は北条氏の一族金沢氏の歴代が大切に管理していた資料を保管した書庫であり、金沢氏一族が書写あるいは入手した書籍、金沢文庫印の押された書籍を金沢文庫本といいます。鎌倉時代、北条氏の一族や幕府の役人が鎌倉に文庫を構えていたことは記録から明らかになっていますが、蔵書の構成や資料の貸し借りなど、内容が明らかになるのは金沢文庫だけです。金沢文庫は武家の文庫のなかでは、現存する最古のものとして貴重な存在です。金沢氏が滅亡した後、称名寺が金沢文庫に保管されていた書物を管理しました。明治30年、尹藤博文の尽力によって大宝院に金沢文庫が復興されました。しかし、関東大震災の被害を受けたので、昭和5年に神奈川県が県立図書館として金沢文庫を復興しました。その後、昭和30年には博物館に改め、平成2年に「文庫ヶ谷」の字名をもつ現在地に移転しました。現在は、中世史の専門博物館として鎌倉時代・南北朝時代を中心に幅広いテーマで展示・講演・研究を行っています。また、閲覧室では収蔵資料の写真版や中世史に関する書籍・雑誌をみることができます。

観覧料

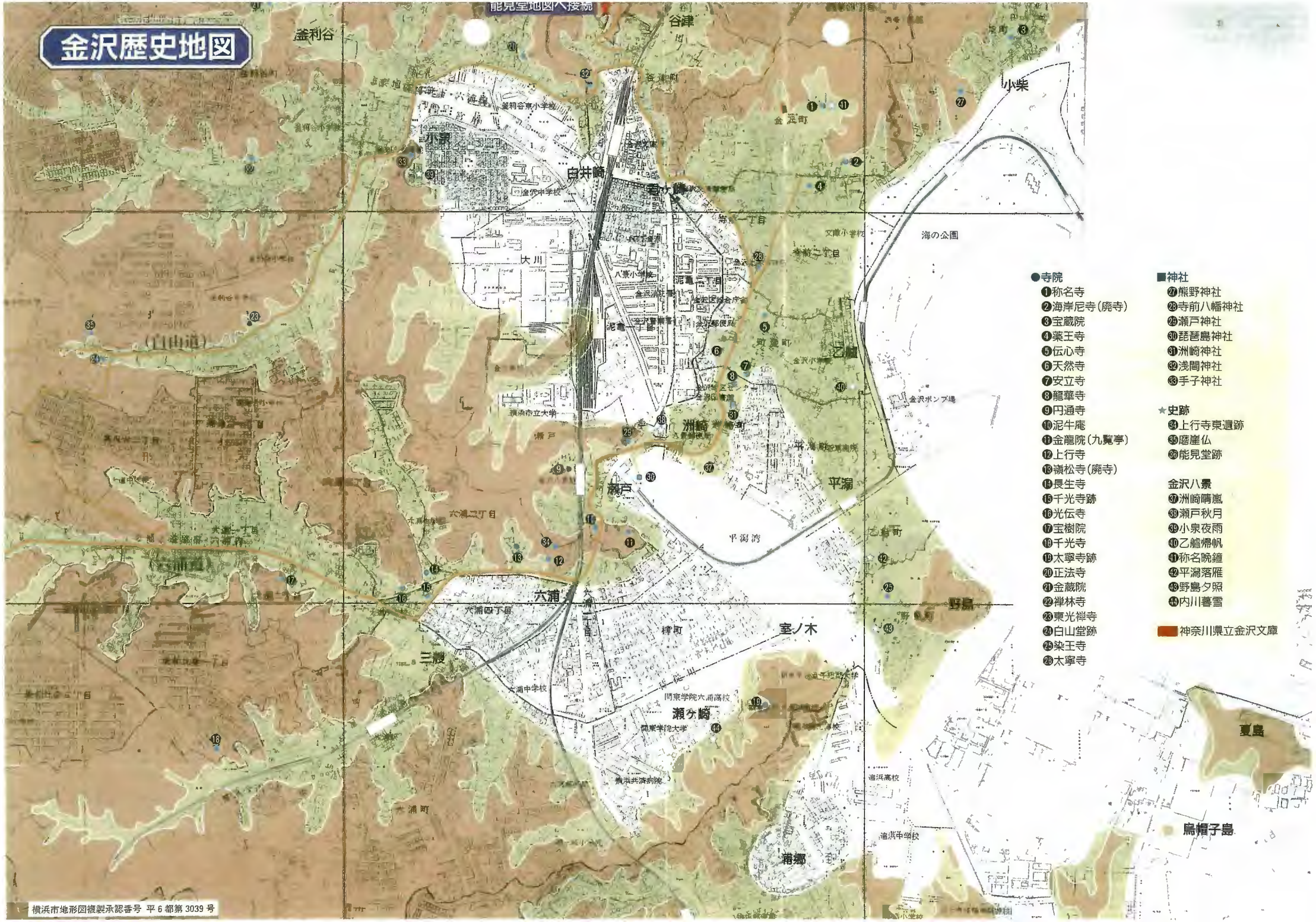
	個　人	20人以上の団体
20歳以上の方（学生を除く）	250円	150円
20歳未満の方・学生	150円	100円

※ただし、高校生等以下、65歳以上の方は無料

■交通　京浜急行「金沢文庫」駅下車、徒歩12分・バス「称名寺前」下車
金沢シーサイドライン「海の公園南口」「海の公園柴口」駅下車、徒歩10分

神奈川県立金沢文庫
神奈川県横浜市金沢区金沢町142　〒236
☎045・701・9069

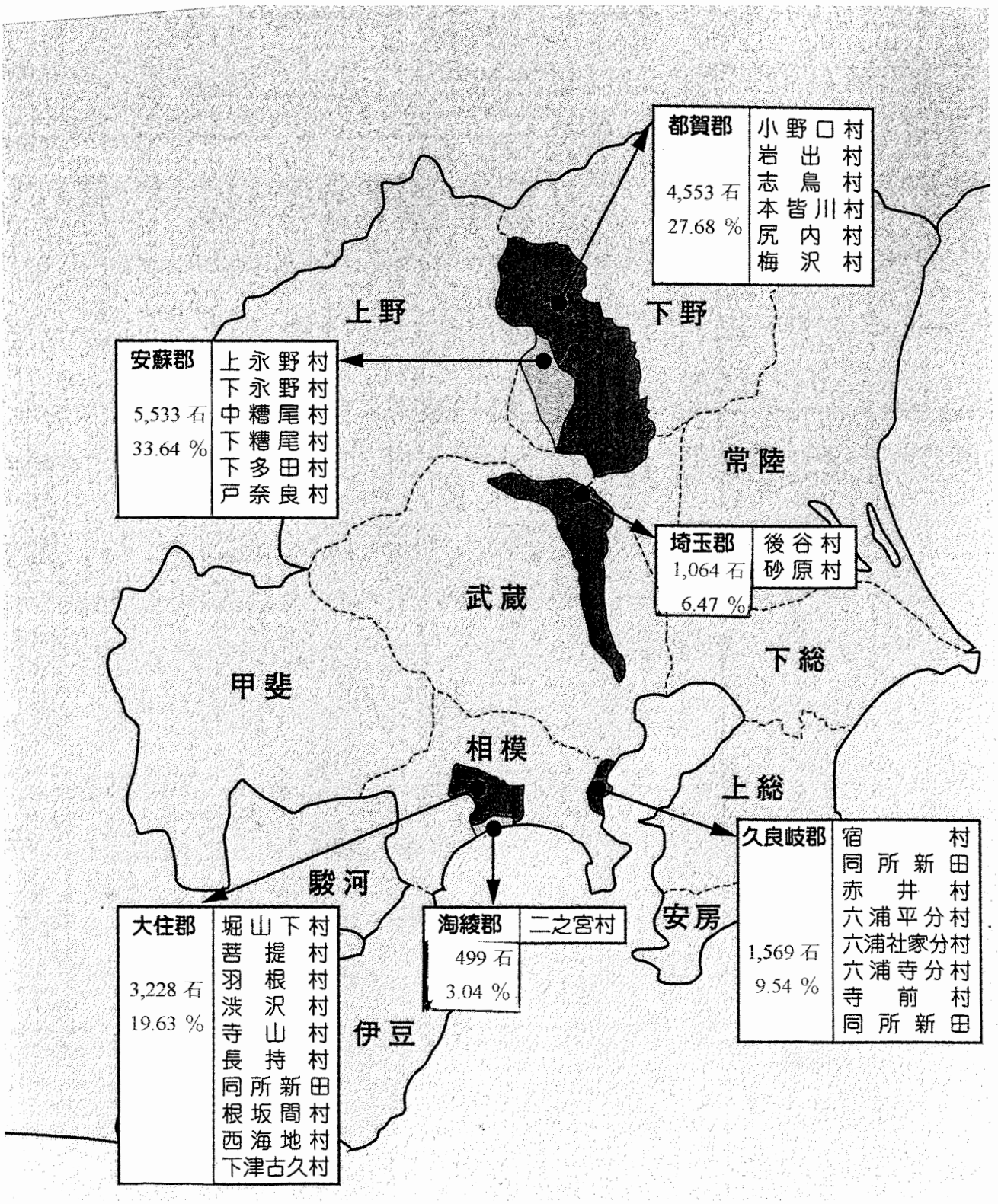
金沢歴史地図

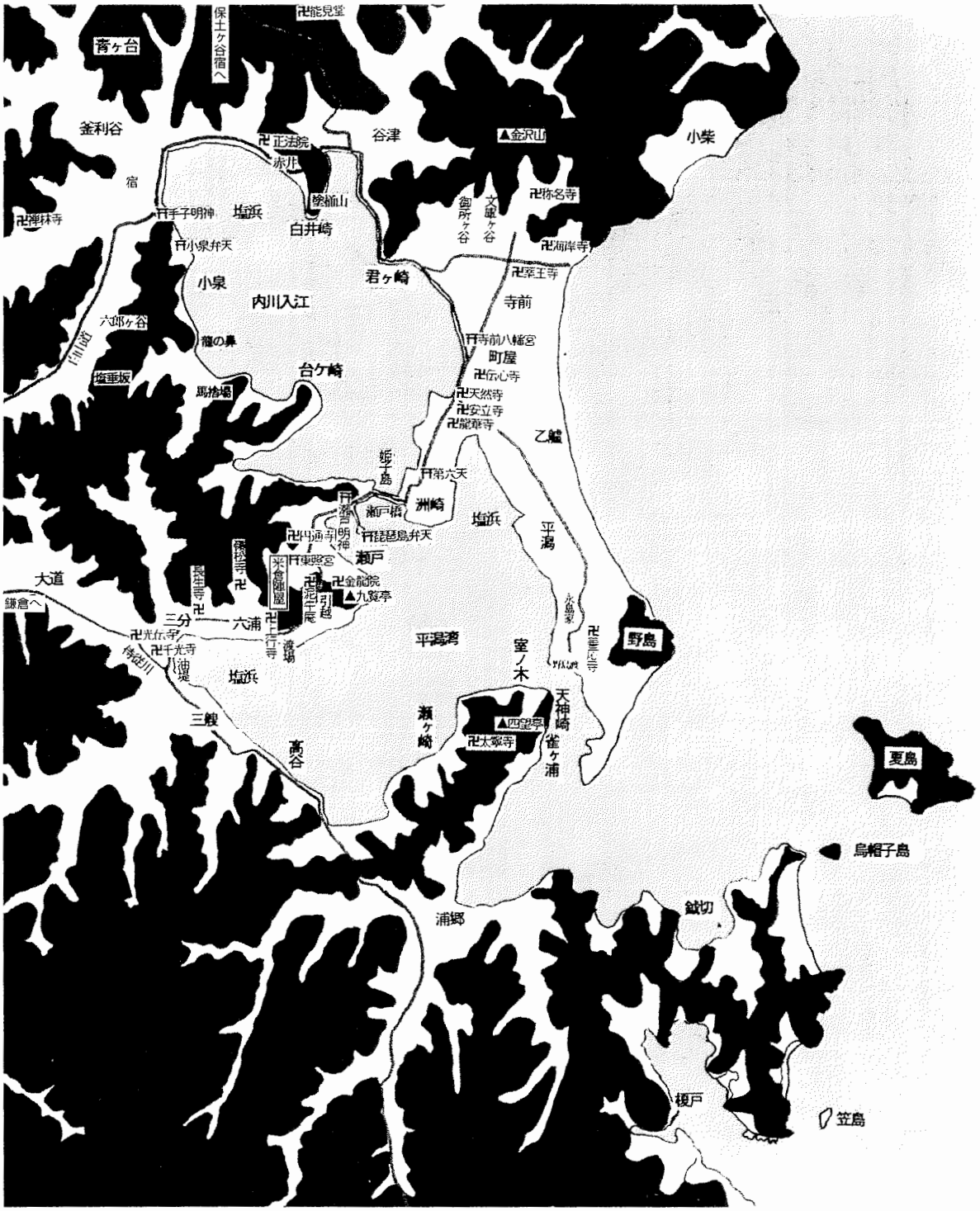


横浜市地形図複製承認番号 平6都第3039号

武州金沢藩領分布図石高表　　三国六ヶ郡三十ヶ村　１６，４４６石

藩主米倉氏は甲斐武田の家臣で滅亡後、家康の旗本になる、五代綱吉の時大名となり、貞享元年(1684)都賀郡(栃木市)に陣屋を構える。(小藩のため城持ち大名ではない)
享保七年(1721)関東の要衝であるこの地に陣屋を移す、伊豆下田から浦賀に船番所が移転した時であり、しかもこの時の当主は養子で入った柳沢吉保の子忠仰であった、なにやら政略のきな臭さを感じるのは思い過ごしであろうか。
以後明治まで連綿としてこの地に構えていた。
笠間が（鎌倉の押さえとして？）生実藩の藩領として明治まで一藩支配に在ったことと符合して考えると何か一脈通じる政策が読み取れないだろうか。如何でしょうか？



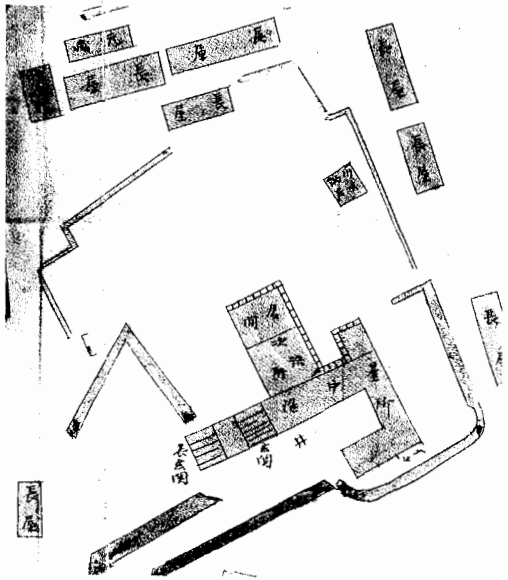
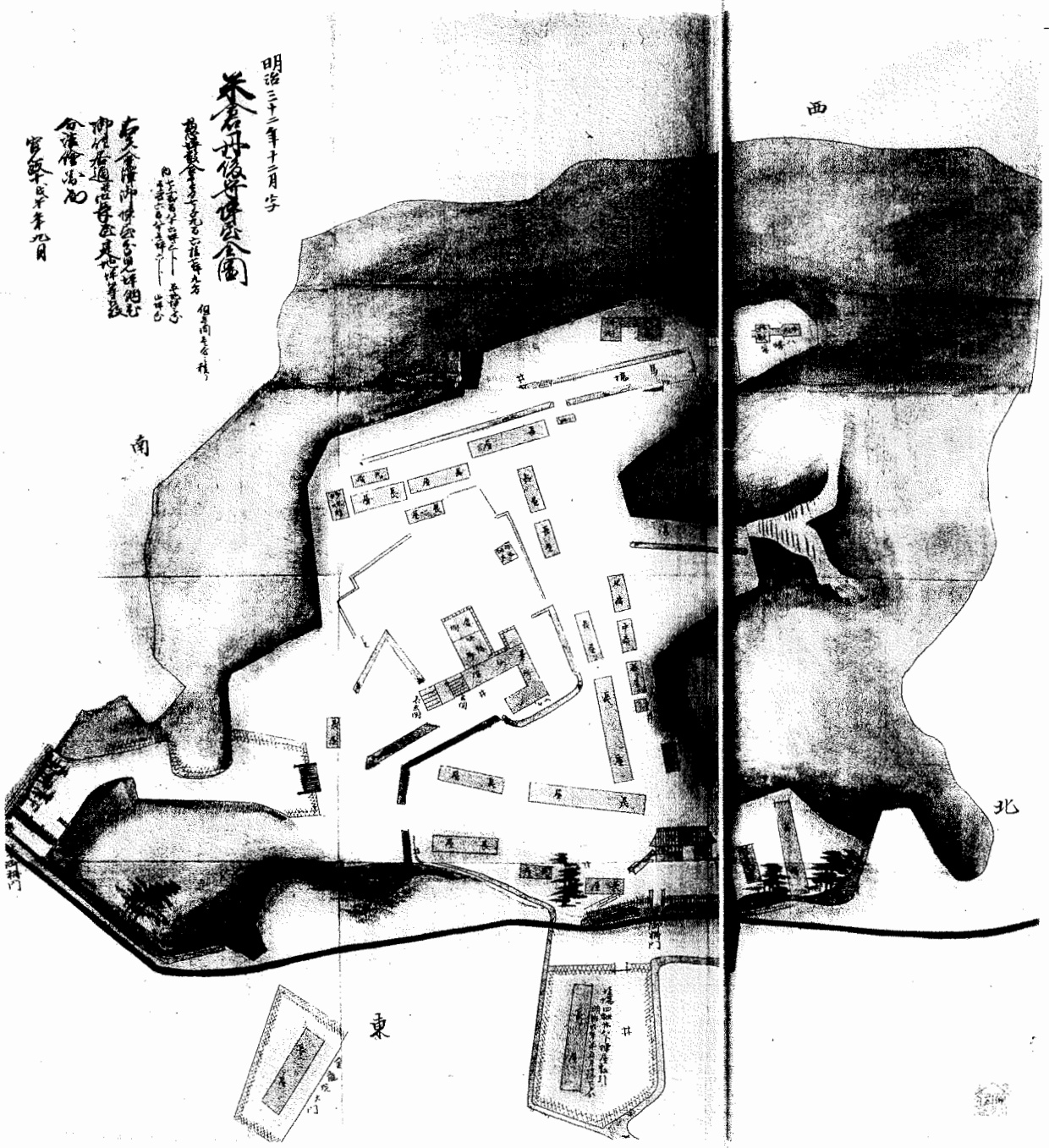


註：神奈川県立金沢文庫『金沢八景』口絵所収の「金沢八景要図」をもとに若干の修正を加えた。

13 寛政一〇年（一七九八）　米倉丹後守陣屋全図（明治三二年写）

（角田孝氏所蔵、神奈川県立金沢文庫保管）

寛政一〇年（一七九八）九月作成の原図を、明治三二年（一八九九）に角田武夫氏が模写したもの。西を上、東を下とする方位で、縦（東西方向）五七センチ×横（南北方向）五二センチ大の薄い和紙に着色されたもので、管見の限り金沢陣屋の構造を示す唯一の絵図面。京浜急行金沢八景駅より追浜方向へ進んですぐ右手の谷戸に位置する金沢陣屋は、三方を峻険な丘陵に囲まれており、単なる政治上の拠点という側面だけではなく、ある程度軍事的役割をも考慮したものとも考えられる。享保五年（一七二〇）に海上交通により江戸へ搬入される物資の荷改めを行う船改番所が、伊豆下田より相模国三浦郡浦賀に移転されたこととの関連で設置されたものと思われる。



金沢陣屋中心部分